

## 富士山で繁殖期に観察されたクロジ

西 教生

### An observation of the Grey Bunting *Emberiza variabilis* in breeding season on Mt. Fuji

Norio NISHI

#### 要 旨

2009年5月18日および同年6月27日、山梨県南都留郡鳴沢村においてクロジを観察した。5月18日は雄1羽、6月27日には雌1羽と巣立ち雛3羽が観察された。山梨県内で繁殖期にクロジが観察されたのはきわめて稀であると思われる、今回、巣立ち雛が確認されたことから、繁殖が示唆された。

キーワード：クロジ、富士山、繁殖期

クロジ *Emberiza variabilis* は本州中部以北と北海道で繁殖するが、本州における繁殖期の分布は日本海側の山地に片寄っている (中村・中村 1995)。これまで、山梨県内での本種の繁殖は知られておらず (山梨県森林環境部みどり自然課 2005)、古くから鳥類の調査が行なわれている富士山においても、クロジは旅鳥とされている (黒田ほか 1971)。富士北麓生態系調査会 (2003) によると、繁殖期の富士山でクロジが観察されているものの、繁殖に関しては触れられていない。筆者は2009年の繁殖期に富士山でクロジの巣立ち雛を確認したため、ここに報告する。

#### 観察日時と場所、形態

2009年5月18日 (10:30~11:15, 晴れ) および同年6月27日 (9:30~10:00, 晴れ)、山梨県南都留郡鳴沢村の標高1540m地点 (35° 25' N, 138° 41' E) において観察した。観察距離は5~20mであり、8倍の双眼鏡を用いた。観察した環境は両日とも、樹高約15~20mのウラジロモミ *Abies homolepis* やオオシラビソ *A. mariesii* の優占する林で、林床は高さ1.5~2mのスズダケ *Sasamorpha borealis* に覆われており、ミズナラ *Quercus crispula* やハウチワカエデ *Acer japonicum* が点在していた。

5月18日は1羽が観察され、その個体はスズメ *Passer montanus* よりもやや大きく、全身が灰黒色で嘴の先端は尖り、上嘴の基部および下嘴は桃色だった。6月27日には4羽が観察され、4羽の内の1羽はスズメよりもやや大きく全身が褐色で、大雨覆および中雨覆の先端の羽縁は黄白色だった。腹は白色で胸や脇に黒褐色の縦斑があり、腰および上尾筒は茶褐色だった。嘴の先端は尖り下嘴は桃色、黄白色の眉斑および顎線が認められた。残りの3羽は

この1羽よりもやや小さく、全身が暗色で背は褐色、大雨覆の先端の羽縁はわずかに黄白色だった。尾羽は短く白斑はなかった。嘴は黒く先端が尖り、口角は黄色だった。

#### 種の同定

5月18日および6月27日に観察された個体は、大きさや嘴の形状からホオジロ科 EMBERIZIDAE であると考えられた。日本で記録のあるホオジロ科で全身が灰黒色のものはクロジの雄しかいない。6月27日に観察された4羽の内の1羽は、上記の記述からクロジの雌であると考えられた。残りの3羽については、上記の特徴からホオジロ科の巣立ち雛であると考えられた。シマノジコ *E. rutila* およびクロジの外側尾羽には白斑はないが、シマノジコの幼鳥の下腹は黄色 (山階 1985) であることから、観察された3羽はクロジの巣立ち雛だと考えられた。以上のことから、5月18日に観察された1羽をクロジの雄、6月27日に観察された4羽の内の1羽をクロジの雌、残りの3羽をクロジの巣立ち雛だと同定した。

#### 観察された行動および考察

5月18日に観察された雄は観察時間中、ウラジロモミの上部で「ホイーチャーチャー」と囀っていた。6月27日に観察された雌1羽と巣立ち雛3羽は、観察時間中つねに一緒に行動をしていた。雌は林内を飛翔して移動していたが、巣立ち雛はほとんど飛翔せず、密生するスズダケの中や林床を移動していた。雌から巣立ち雛へ給餌する場面が観察され、雌および巣立ち雛からは「チッ」という金属的な声も聞かれた。これら4羽以外に、「ホイーチャーチャー」という囀りも確認した。

また、5月18日および6月27日には雄や雌、巣立ち

雛が確認された場所から南東および北西方向にそれぞれ 300 m の距離を調査したが、クロジ以外のホオジロ科の鳥類は確認されなかった。6 月 27 日には雌と巣立ち雛が観察された場所から半径 20 m の範囲を踏査したが、巣の発見には至らなかった。両日とも、少なくとも 2 羽の雄が囀っており、囀りは観察時間中ほとんど途切れることはなかった。巣立ち雛が確認されたことから、繁殖が示唆された。繁殖に関する具体的な事柄が確認されたのは、山梨県では初めてであると考えられる。

江崎ほか (2007) によると、クロジの雄はなわばりへの強い帰還性をもつという。このことは、複数の雄が確認された今回の観察例が、偶発的なものではないことを示していると思われる。なお、筆者は鳥類調査のため 2009 年 9 月まで同所を訪れていたが、クロジの囀りが聞かれたのは 7 月中旬までであった。

#### 引用文献

- 江崎保男・馬場隆・堀田昌伸 (2007) 森林性 *Emberiza* クロジの繁殖生態、なわばりへの帰還と行動圏の著しい重複. 山階鳥類学雑誌 38 : 67 - 79
- 山梨県・富士北麓生態系調査会 (2003) 平成 14 年度 生態系多様性地域調査 (富士北麓地域) 報告書. 山梨県環境科学研究所
- 黒田長久・千羽晋示・由井正敏・中村司 (1971) 富士山地域の鳥類. 富士急行株式会社堀内浩庵会 (編) 富士山 富士山総合学術調査報告書 : 856 - 948. 富士急行株式会社, 東京
- 中村登流・中村雅彦 (1995) 原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>. 保育社, 大阪
- 山梨県森林環境部みどり自然課 (2005) 2005 山梨県レッドデータブック. 山梨県森林環境部みどり自然課, 甲府
- 山階芳麿 (1985) 日本の鳥類と其生態 第 1 卷 (復刻版). 出版科学総合研究所, 東京